

「大学・まち・学生 むすぶプラン」の進捗状況

I プラン全体の進捗状況

施策数（全体）	26年度までに実施済みまたは実施中	27年度実施予定	検討中（未着手）
87	81	3 ※1	3 ※2

- ※1 2－推(1)「留学生支援機能の強化」：留学生スタディ京都ネットワーク
 6－リ(1)－イ「PR戦略と連動した、学生が主体となった効果的な広報手法の検討」：京都学生広報部
 6－推(2)－①「京都で学ぶ大学生やOB・OGによる情報発信」：京都学生広報部
- ※2 1－推(2)－②「学生の意見吸収システムの構築」
 2－リ(3)－ウ「大学の留学プログラム実施に係る支援策の検討」
 4－リ(2)－エ「京都の大学に設置された社会連携センター，地域連携センターなどのネットワークづくり，大学と地域とを繋ぐマッチング・コーディネートの仕組みづくり」

II 新たな施策・事業の進捗状況

1 学生が学ぶ環境の充実

- 推進施策(1)－①「学生の安心・安全に対する意識を高めるための啓発」

⇒ 「まさかを防いで、京都で学生生活を楽しむためのハンドブック。」の制作

【実施主体：京都市】

<概要>

京都で学ぶ学生が、災害時の対応や犯罪などに巻き込まれないための知識を身に付けることができるよう、防災・防犯などに関する注意点など、安心・安全に関する幅広い情報を掲載したハンドブックを、京都府警察などの関係機関と連携して作成した。

<取組状況>

冊子のほか、電子ブック版、電子ブック版に誘導するための啓発カードを作成した（冊子5,000部、カード10,000部作成）。

活用方法としては、大学やキャンパスプラザ京都での冊子の配架のほか、京都聖母女学院短期大学での新入生向けのオリエンテーションや、京都学園大学での右京署による防犯教室などでカードによる啓発を行った。

- 推進施策(2)－①「学生が京都の魅力にふれる機会の充実」

⇒ **「京都・和の文化体験の日」の実施**

【実施主体：京都市】

<概要>

日本文化の真髄である京都の文化芸術を次の世代にしっかりと伝えていくため、大学生をはじめとする若者が「和の文化」に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供した。

<取組状況>

平成27年2月14日（土）に祇園甲部歌舞練場等で開催。井上 安寿子（京舞井上流）、片岡 愛之助（歌舞伎役者）による対談や京舞、茶道、華道など和の文化鑑賞を実施。参加者595名のうち168名が大学生・高校生（無料招待）。

2 大学・学生の国際化の促進

- リーディング施策(1)「留学生誘致に向けた海外への広報」

⇒ **留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信**

【実施主体：京都市】

<概要>

世界中の若者に京都を身近に感じていただくとともに、「京都の大学で学びたい」、「京都で学生生活を送りたい」という思いを持っていただくことで、京都の大学への留学につなげるため、京都で学ぶ留学生ならではの視点を取り入れ、京都での学生生活、京都の大学、まちの魅力を伝えるプロモーション映像を制作した。

<取組状況>

留学生が企画・出演する留学生誘致プロモーション映像「Why Choose Kyoto?」を制作。DVD2000枚を制作するとともに、※ユーチューブで動画を配信している。 ※ 視聴回数：11,017回（7/13現在）

- リーディング施策(2)「大学のまち京都の魅力を体感できる短期留学受入の実施」

⇒ **「大学のまち京都」の魅力を体感できる短期留学受入事業**

【実施主体：京都市・大学コンソーシアム京都】

<概要>

日本への留学に関心のある海外の学生に、実際に、京都へお越しいただき、京都の奥深い魅力を知ってもらうことで、京都の大学への留学につなげるため、多様な大学が集積する京都の強みを活かした特色ある講義と京都体験（伝統文化、伝統産業、先端産業など）を組み合わせた2週間程度の受入プログラムを京都市と大学コンソーシアム京都の協働により開発、実施する。

<取組状況>

平成26年度は、大学教職員をはじめとした運営員会によりプログラムを開発。平成27年度は、夏季と冬季に2回留学生を受け入れる予定であり、夏季は12名の留学生を受け入れることが決定。

夏季プログラム（7/26～8/8）：京都の文化・芸術・現代文学・マンガ等に関する講義、禅・伝統産業・食文化等の体験、企業人による特別講義 など

- 推進施策(2)－②「留学生向け住宅の提供支援」
 - (4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化 リーディング施策(2)「大学と地域の連携・コーディネートの一環の充実」)

⇒ **京都市、京都橋大学及び醍醐中山団地町内連合会の連携協定締結による団地活性化の取組** **【実施主体：京都市】**

＜概要＞

京都橋大学が醍醐中山団地の空き住戸を活用し、そこに学生（留学生を含む。）がルームシェア形式で居住することにより、住民として団地の活動に参加するとともに、大学が、団地内に地域と連携する拠点となる「地域連携センター」の分室を設置・運営し、子育て世帯や高齢者の支援等を行うことで、団地の活性化を目指す。

＜取組状況＞

平成26年10月30日に協定を締結し、京都橋大学が住宅の改修工事を実施。平成27年4月からシェアルーム3室（定員9名）に9名の学生（留学生6名含む。）が居住するとともに、京都橋大学の地域連携センター分室が開設。

3 学生の進路・社会進出の支援

- リーディング施策(1)「京都企業と連携した人財育成」

⇒ **京都企業と連携した次代の京都を担う人財育成事業** **【実施主体：京都市】**

＜概要＞

大学や国籍の枠を越えた留学生を含む学生を、グローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持った「グローバル人財」として育成するとともに、学生と京都の企業がお互いを知る機会を創出するため、学生のチームが、京都企業と連携したプロジェクト（企業の提示する課題の解決、学生から企業への提案など）に取り組んだ。

＜取組状況＞

平成26年度は、9プロジェクトを実施し、11大学から48名の学生が参加（うち留学生12名）。

H26 協力企業等：(株)ブリッジコーポレーション、京都朱雀ロータリークラブ、NPO法人 O U E N J A P A N、京都信用金庫、ASTEM・オスカー認定企業、(株)フラットエージェンシー、叡山電鉄(株)、(株)ケービデバイス、和光技研(株)

平成27年度は、10プロジェクトを実施する予定。



4 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

- 推進施策(3)－①「地域の問題解決につながる都市政策研究の推進」

⇒ 未来の京都創造研究事業における大学都市政策課題の追加

【実施主体：京都市・大学コンソーシアム京都】

<概要>

「大学のまち京都」が有する知の集積を活用し、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行うとともに、若手研究者などの発掘・育成とネットワーク形成を図る「未来の京都創造研究事業」の指定課題において、大学都市政策に関する課題を追加した。

<取組状況>

平成26年度は、「外国人留学生の大学卒業後の就業に関する動向の分析と自治体、企業及び大学における支援方策に関する研究」を実施。現役留学生、元留学生、企業に対するアンケートやヒアリングを実施し、日本での就業に関する意識、就業を阻害する要因等について調査、研究を行った。

平成27年度は、「地域連携活動への参加が学生の意識に与える影響の分析に基づく効果的な大学・地域連携科目及び事業の開発に向けた研究」を指定課題として研究を行う。

5 学生が持つエネルギーをいかした京都力の強化

- リーディング施策(1)「学生の主体的活動の促進」

⇒ 輝く学生応援プロジェクトにおける「学生ボランティアチャレンジ」の新設

【実施主体：京都市】

<概要>

キャンパスプラザ京都1階の学生の活動拠点「学生 Place⁺（プラス）」において、学生のボランティア活動への参加をコーディネートすることにより、学生が社会的な課題に触れる機会を創出するとともに、活動後の振り返りの実施により学生の成長を支援する「学生ボランティアチャレンジ」を実施した。

<取組状況>

平成26年度は25名が参加。たけのこ畑保全活動や鍋祭りでのリユース食器システムの運営等の活動を行い、25時間以上活動をした12名に修了証を交付。

平成27年度は前期、後期の2回（各25名）学生を募集することとしており、前期は29名の学生が活動をスタート。



6 プロモーション戦略の強化

- リーディング施策(1)「学生の力を活用した国内外への情報発信」

⇒ 京都B&Sプロジェクト

【実施主体：京都市・大学コンソーシアム京都】

<概要>

全国から訪れる修学旅行生や関西圏からの校外学習生に対し、京都で学ぶ大学生がガイド役となり、兄弟、姉妹（Brother&Sister）のように交流しながら、大学キャンパスや観光地を散策・観光する事業を、京都市・大学コンソーシアム京都・JTB西日本京都支店が共同実施している。

<取組状況>

平成26年度は、ツアー実施済み1件、45名の修学旅行生が参加。

平成27年度は、ツアー実施済み9件、1,572名の修学旅行生が参加（6月20日現在）。



○ リーディング施策(2)「PR戦略の構築」

⇒ **京都学生広報部による「大学のまち京都」プロモーション事業**

【実施主体：京都市・大学コンソーシアム京都】

＜概要＞

18歳人口が長期的に減少し、大学間競争の一層の激化が予想される中、「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力をこれまで以上に積極的に発信する必要があることから、将来大学生となる中高生に向けて、「京都の大学で学びたい」「京都で学生生活を送りたい」と思ってもらえるよう、京都で学ぶ大学生が学生生活を送る中で実感する「リアルな京都の魅力」を学生目線で発信する「京都学生広報部」を創設する。

＜取組状況＞

平成27年6月26日、30日に説明会を実施し、98名が参加。説明会では、東京からWebディレクターをされている講師を招き、学生がアイデアを出すための簡単なワークも実施した。

